

報告書

アジアにおける日本音楽ソフトの需要予測
(要約版)

2003年9月22日

MRI 株式会社 三菱総合研究所

情報環境研究本部 情報通信政策部

MRI

1. 日本への還流防止は正規盤市場の拡大と海賊盤対策につながる

膨大なアジアの海賊盤市場

アジア市場では海賊盤が横行している。日本の音楽ソフトが「正規ライセンス盤」として販売されている市場規模(約50億円)と同程度の金額が、また数量ベースでは正規盤(約500万枚)以上の数量(700~900万枚)が、それぞれ海賊盤によって奪われていると推定される。

今後、対策の拡大とともに、アジア各国・地域で海賊盤が減少すると想定

今後、我が国を始め海外からの官民あげた働きかけ、著作権意識の普及・啓発活動、行政当局の取締り等によって、海賊盤の比率は減少すると考えられる。

ここでは、IFPIのレポートにおける「海賊盤比率」をベースに、中国以外の各国・地域では、2007年で2割、2012年で4割、海賊盤比率が減少するものと仮定して試算した。また海賊盤比率の高い中国では5年後に海賊盤比率が現状の3分の2、10年で現状の3分の1に減少。台湾では5年後に海賊盤比率が現状の7割に、10年後に現状の4割に減少すると仮定し、試算した。

正規盤市場の拡大は海賊盤の減少にも繋がる

日本からのライセンス盤の還流が防止されると、レコードメーカーは、現地での同時発売、現地ニーズに合わせたオリジナル商品の企画、リリースタイトル数の拡大、価格の見直し、等の積極的事業展開が可能となる。

その結果、正規盤市場が活発化し、海賊盤市場が減少傾向に向かう。

レコード輸入権創設により、レコードメーカーは積極的にアジアに進出できる

レコード協会会員各社に対して行ったアンケート結果でも、現状でアジア地域への原盤ライセンスを積極的に行っているのは4社にとどまるが、レコード輸入権が創設されれば、現状より対応を積極化させたい、と回答しているのが過半数(19社中13社)にのぼる。

2. アジアの音楽ソフト市場は大きく拡大し、日本音楽のシェアも伸びる

アジアの音楽ソフト市場概況

アジアの主要な4カ国・地域(台湾、中国、香港、韓国)での音楽ソフト全体の市場規模は数量、金額とも大きく後退しているのが特徴的。台湾では、数量、金額とも97年 - 02年の5年間で半以下に落ち込んでいる。韓国はIMFショック後の景気停滞で98年がボトムとなり、その後挽回していたが02年には市場が縮小に転じた。中国については2000年を底に回復しているが、海賊盤に大きく市場を侵食されており、正規盤の回復ペースは鈍い。

今後大きな成長の可能性を秘めるアジアの音楽ソフト市場

しかし、アジア諸国・地域の1人あたりの音楽ソフト購入額は、所得水準の高い香港、シンガポールでも日本の約3分の1、台湾で約6分の1、韓国で約8分の1、中国に至っては500分の1以下(米ドル換算比較)と大きな格差がみられる。また、GDPに占める音楽ソフト購入の比率も、アジア諸国はまだ日本の半以下程度であり、今後の経済成長につれ音楽ソフト市場が大きく拡大する余地があると考えられる。

正規盤、海賊盤を問わず、人々が音楽ソフトに支出する金額の「自然増」分として、00 - 05年の年平均経済成長率5.8%、05 - 12年の年平均経済成長率4.6%という予測値を基に試算した。ただし、中国については成長が著しいことから、中国の公式経済成長目標を引用し、「年率7.2%成長」を採用した。

アジアの音楽ソフト市場での日本のシェアは大きく拡大する

日本の音楽ソフトの現地市場でのシェア(2002年)は、台湾では2桁(数量ベースで11.5%、金額で14.1%)に達している。以下、シンガポールの6%、香港の3~5%、と続くが、日本語盤未開放の韓国では1.5%、中国に至っては0.8%にとどまっている。

今後は、以下の促進要因により、日本の音楽ソフトのシェアが急速に高まることが想定される。

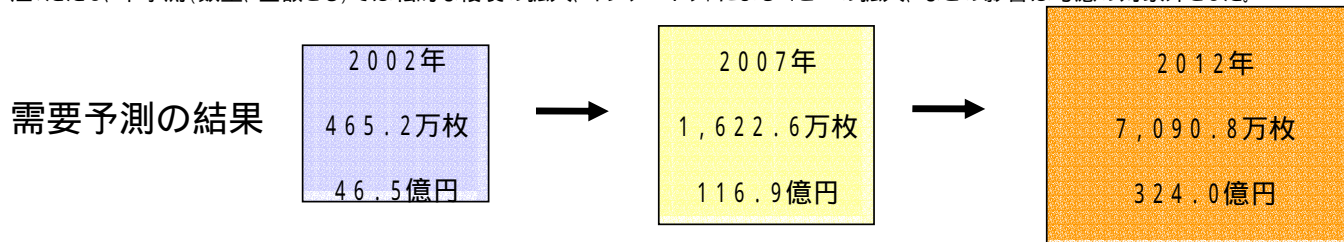
日本への関心の高まり、日本語学習熱の高まり、韓国での日本語音楽ソフトの解禁、中国での発売タイトル数の拡大(現在は日本の有力アーティストでも正規ライセンス盤を発売していない例も多い)

2012年の試算では、日本の音楽ソフトのシェアが台湾では15%、香港では8%、中国、韓国ではともに10%になるものと仮定した。

3. 海外での日本音楽ソフト需要予測～現地販売ベース

ここまでの調査結果をもとに、海外での日本音楽ソフトの需要を予測した。まず数量ベース(日本からの現地ライセンス供与による「正規盤」の生産枚数による市場規模)では、2002年の約500万枚から、2007年には3倍の約1,600万枚、2012年には14倍の7,000万枚程度に成長することが見込まれる。また金額ベースでは、2002年の約50億円から、2007年には約120億円、2012年には約6倍の約320億円に成長することが見込まれる。

注:ただし、本予測(数量、金額とも)では私的な複製の拡大、インターネットによるコピーの拡大、などの影響は考慮の対象外とした。



中でも主要な4ヶ国・地域についての需要伸長率をみると、特に中国での伸長が際立っており、2002年～2012年の10年で、数量ベースで約120倍(44万枚が5400万枚に)、金額ベースで約165倍(1億円強が約170億円に)にまで伸長すると見込まれる。

次いで大きいのが韓国で数量・金額とも10年間で10倍強に伸長することが予測される。

日本ソフト 現地小売 数量	正規ライセンス数量(千枚)			伸び(倍) (2007年/2002年)	伸び(倍) (2012年/2002年)
	2002年	2007年	2012年		
台湾	2,007	3,950	7,056	2.0	3.5
中国	439	8,093	54,558	18.4	124.3
香港	340	721	1,331	2.1	3.9
韓国	418	1,467	5,114	3.5	12.2

日本ソフト 現地小売 金額	正規ライセンス金額(百万円)			伸び(倍) (2007年/2002年)	伸び(倍) (2012年/2002年)
	2002年	2007年	2012年		
台湾	2,529	4,084	6,197	1.6	2.5
中国	105	3,454	17,342	32.9	165.2
香港	547	1,055	1,799	1.9	3.3
韓国	404	1,428	4,566	3.5	11.3